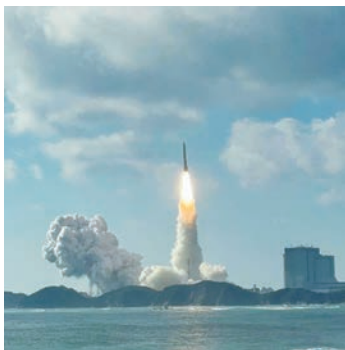
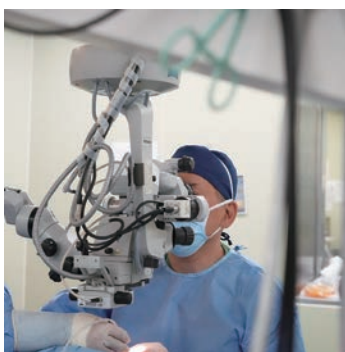


飛 魚



第 37 号

令和 8 年 7 月

社会医療法人 義順顕彰会 種子島医療センター

<https://www.tanegashima-mc.jp/>



TANEGASHIMA
MEDICAL CENTER

表題「飛魚」：田上悠峯 書

「悠峯」とは、義順顕彰会会長 田上容正が、公益財団法人
日本習字教育財団から命名された雅号です。

表紙について

1987（昭和62）年に救急指定病院の認定を受けて以来、当院は365
日24時間体制で「断らない救急」を実践してまいりました。現在は二
次救急指定病院として、救急搬送される重症患者に対し、診療科の
枠を超えて各科の専門医が連携し、入院治療や手術を含む高度な医
療を提供しています。離島という厳しい医療環境のなかで、地域医療
を支えるため日々力を尽くす職員たちの姿を多くの方に知っていただ
きたいとの思いから、第37号の表紙には、普段目にする機会の少ない
当院の手術風景と手術室・中央材料室スタッフを掲載しました。

表紙撮影：上妻 友紀

理 念

島民の皆さまに愛され 信頼される病院

私たちは思いやりの心と
技術を研鑽する真摯な姿勢で
豊かな地域医療の向上に努めます

基本方針

1. 地域に根ざし、信頼される病院

- ・誰でも、いつでも安心して利用できる、地域に密着した病院作りをいたします。
- ・救急体制を充実し、24時間対応します。
- ・地域医療機関などとの連携を図り、必要に応じた役割りを果たします。

2. 温もりと思いやりのある医療を提供する病院

- ・各部署の強い連携により温もりのあるチーム医療を行います。
- ・患者様の権利を尊重し、安全医療の推進に努めます。
- ・快適かつ安心して医療を受けられる療養環境を提供いたします。

3. 医療の質を高め、お互いに学び合える病院

- ・医療人として専門知識、技術の研鑽に努めます。
- ・患者様共々学びあい、ニーズに合った地域医療を目指します。

目次 Contents

理念・基本方針	
巻頭言	病院長 高尾 尊身…………… 4
理事長挨拶	理事長 田上 寛容…………… 6

病院概要

沿革……………	10
概要……………	17
組織図……………	20
委員会・会議組織図……………	21
在籍医師紹介……………	22
職員数……………	25
病院日誌……………	26

実績

種子島医療センター	統計資料…………… 33
	診療部門…………… 41
	診療支援部門…………… 52
へき地医療センター……………	60
田上診療所……………	62
介護老人保健施設 わらび苑……………	64
関連施設……………	66

寄稿

変容する馬毛島	
社会医療法人義順顕彰会	会長 田上 容正…………… 68
丸坊主	
	病院長補佐／眼科部長 田上 純真…………… 70
令和7年度鹿児島県医師会会長賞（看護業務功労）	
受賞に寄せて	看護部長 園田 満治…………… 73
種子島医療センターでの診療を振り返って……………	74
種子島医療センターでの研修を終えて……………	76

部門別紹介

【診療部】	
外科……………	79
循環器内科……………	80
消化器内科……………	81
小児科……………	82
脳神経外科……………	83
糖尿病内科……………	84

麻酔科……………	85
救急科……………	86
眼科……………	87

【看護部】

看護部長室……………	90
外来……………	92
手術室・中央材料室……………	93
2階病棟（外科・脳外科・整形外科病棟）……………	94
3階西病棟（内科・眼科・小児科病棟）……………	95
3階東病棟（地域包括ケア病棟）……………	96
4階病棟（回復期リハビリテーション病棟）……………	97
透析室……………	98
外来化学療法室……………	99
ナースエイド（看護助手）室……………	100

【診療支援部】

薬剤室……………	102
画像診断室……………	103
臨床工学室……………	104
臨床検査室……………	105
栄養管理室……………	106
リハビリテーション室……………	107
	組織図…………… 108
	チーム紹介…………… 109
	活動紹介…………… 111
	療法士修了証一覧…………… 112
	理学療法学科実習生受け入れ一覧…………… 112
地域医療連携室……………	113
クラーク室……………	114

【事務部】

総務課……………	116
医事課……………	117
広報企画課……………	118

【直轄部門】

医療安全管理室……………	120
感染制御部……………	121
経営企画改善室……………	122
システム管理室……………	124

院内委員会活動

緩和ケアチーム……………	126
看護部教育委員会……………	127

リスクマネジメント委員会	128
化学療法委員会	129
認知症ケアワーキンググループ	130
NST (栄養サポートチーム) 委員会	131
輸血療法委員会	131
転倒転落防止委員会	132

関連施設

田上診療所	134
訪問看護ステーション 野の花	138
訪問リハビリテーション事業所 種子島医療センター／田上診療所	139
介護老人保健施設 わらび苑	140
院内保育所	141

活動紹介

種子島医療センターバスケット部 (MEDS)	144
種子島医療センターサーフィン部 (TSC)	145
プロテニスプレーヤー 姫野ナル	145
医療講座	146
報道・広報関係	147

研究・研修

医師業績・看護師業績	154
療法士業績	155
院内研修会実施状況	156
研修報告書優秀者	157
永年勤続表彰者	158
編集後記	

世界の不条理を越えて — 離島医療の誇り —



社会医療法人義順顕彰会
種子島医療センター
病院長 高尾 尊身

種子島の日常には、穏やかな時間が流れています。しかし、ひとたび世界に目を向けると、決して平穏とは言えない現実が広がっています。長期化するウクライナ侵攻や中東情勢の緊迫など、世界は分断と疑心暗鬼の渦中にあります。

大国が未来の平和を大義に掲げても、それがまた新たな火種を生んでしまう。「平和を望むことで争いが起きる」という皮肉で悲しい不条理を、私たちはまざまざと見せつけられています。

この不条理に対する私たちのささやかな抵抗は、まず「知ること」と「考えること」を止めないことから始まると思います。遠くの悲劇から目を背けず、同時に、溢れる情報に過剰に煽られて分断や憎悪の連鎖に加担しないこと。国家の論理に飲み込まれず、一人の人間としての倫理観を持ち続けること。

そして何より、目の前にいる家族や友人、隣人との関係の中に、確かな温もりと「**小さな平和**」を築き続けることです。

この世界的な不安定化は決して対岸の火事ではなく、物価高騰や経済の低迷という形で、私たちの日常にも確実に暗い影を落としています。正解のない、不安に包まれた時代において、私たちはどのように生きるべきか。

私は、その希望の一つが、私たちが日々向き合う「医療」という営みの中にあると確信しています。

遠く離れた世界の惨状を前に、時に無力さを覚えますが、この種子島の地で目の前の患者さんの命と健康を守り、痛みに寄り添う私たちの仕事は、誰かの「日常と

いう平和」を守る、非常に尊く、確実な営みだと思います。

外の世界がどれほど不確実であろうと、私たちがここで提供する医療と安心は、地域の人々にとって揺るぎない希望となります。

職員皆さんの情熱と新しい視点は、当院にとって大きな財産です。医療の現場は決して平坦な道のりばかりではありませんが、どうか失敗を恐れず、経験や先輩たちから多くを学び、この地域を支える医療人として共に成長していきましょう。

この不透明な時代において、私たちが種子島の方々にとっての「確かな安心の灯台」であり続けられるよう、誇りをもって歩んでいきたいと思います。



2025年度、「One Crew, One Mission」の理念のもと、離島医療への志を同じくする医師・職員が新たに加わった。

理事長挨拶

最後まで種子島らしく暮らすために



社会医療法人義順顕彰会
種子島医療センター
理事長 田上 寛容

西之表市における2040年の人口推計をみると、女性の年代別で最も多いのが90代となっています。

私が医師として仕事を始めたばかりの頃は高齢化率が21.2%でした。90歳代の患者さんを診ると、すごく長生きな方がおられるという印象で、ましてや100歳以上の方などはごくまれにしか遭遇しない神様のような存在だと思っていました。

それから約30年が経ち、直近の高齢化率は40.8%と驚くべき変化を遂げています。もちろん日常の診療でも高齢化は十分に感じられます。最近では90歳はもとより100歳以上で外来通院されている方も多くなり、さらに驚くのは100歳以上でも自分で杖をついて歩いて若い方と同じように受診される方もおられることです。

2040年まであと15年程ですが、予測される高齢化率は45.9%となっています。つまり市民のおよそ2.2人に1人が高齢者ということになります。恐らく、その頃には外来の待合室に座っているのは90歳以上の方がほとんどということになるでしょう。

さて、種子島では高齢化に伴い在宅医療の需要も確実に増しています。

私も訪問診療を行っていますが、10年程前までは月に1回から始めた訪問診療でした。始める前までは一日中病院の建物の中での仕事がほとんどだったので、たまに仕事で外に出て美しい種子島の風景を見ながらのドライブは楽しさもありましたが、それから徐々に訪問診療を希望される方が増え、今では毎週行かないと回り切れないほど多くの方を自宅で診るようになりました。

今では40人前後の登録者がおり、東海岸コースから北回りコース、西海岸から中種子コース、そして市街地コースと、西之表から中種子町をほぼ網羅する範囲で移動しています。そうすると、なかなか景色を楽しむ余裕はなくなり、移動だけでもかなりの時間を必要とするので、全部を回り終えて病院に帰る頃にはクタクタになることも少なくありません。

訪問診療を行う理由で最も多いのは、病院まで患者さんを連れてくることができないという理由です。高齢や病気により日常生活動作が極端に低下された方は、サービスを利用するにしても負担が多く、訪問診療を希望されます。

次に多いのが、自宅での看取りです。自宅での看取りのためには、医療者だけでなく家族にも様々な準備と十分な理解が必要で、難しいケースも少なくありませんが、自宅で家族に看取られることは、本人にとっても家族にとっても理想的なことだと思います。

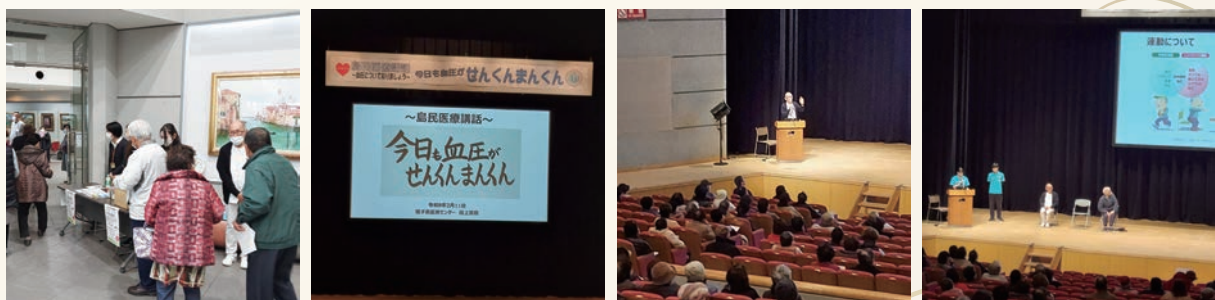
2025年に自宅での看取りを行うことができたのは15人でした。

自宅での看取りは、住み慣れた家で家族に囲まれながら行われます。それまで十分にお別れの時間を持つことができ、みなさん穏やかで、笑顔でお別れをされる方もおられます。なかには訪問看護のスタッフと手を取り合い、感謝の気持ちを伝えてくださる家族もおられます。それは病院にはない充実感を感じる時間でもあります。

超高齢化を迎える種子島において、今後在宅医療の必要性はますます増していくと思います。現在、訪問診療だけでなく訪問看護、訪問リハビリを受けられる方も増えています。ただ、在宅医療は病院での診療と比べて効率という面では劣ります。しかし、医療者にとっても家族にとっても、自宅で医療を受けられる満足感という面では他に代えがたいメリットがあります。

島民の皆様信頼される医療介護の提供を理念とする当法人にとっても、在宅医療はこれからさらに必要な部門となっていくと思います。私たちはこれまで島民に必要な医療介護を考え、提供してきました。そして、これからもその方針は変わりません。

種子島の方々が最後まで種子島に住んでいて良かったと思えるような種子島にしたいと思います。



西之表では「出張医療講座」を行っています。2026年2月に中種子町では初めての医療講話を開催しました。

高齢者の方々もたくさん聞きにきてくださいました。

医療についてもっと知っていただき、親しみを持っていただき、種子島に住んでいて良かったと思えるような医療を提供したいと思っています。

病院概要

[沿革](#)

[概要](#)

[組織図](#)

[委員会・会議組織図](#)

[在籍医師紹介](#)

[職員数](#)

[病院日誌](#)



無形民俗文化財『大的始式』。伝統あるこの新春行事にて、当院の薬剤師・谷さんが射手の大役を務めました。

沿革

1969年 (昭和44年)	12月	田上容正内科開院
1980年 (昭和55年)	2月	人工透析開始
1981年 (昭和56年)	9月	医療法人容正会設立
1982年 (昭和57年)	5月	28床になる
1984年 (昭和59年)	3月	56床病院を新築 全身用CTスキャナ導入
	7月	医療法人義順顕彰会 田上病院設立
1985年 (昭和60年)	11月	病床数99床になる
1987年 (昭和62年)		救急告示病院認定
1989年 (平成元年)	12月	20周年記念 院内誌『飛魚』 創刊
1990年 (平成2年)		
1991年 (平成3年)	7月	介護老人保健施設 わらび苑開設 (入所50床、 通所10名)
1992年 (平成4年)		



院内報『飛魚』創刊号



第2号



第3号



第4号



第5号

1994年
(平成6年)

- 1月 MRI設置
脳神経外科新設
標榜科目8
(内科、外科、
整形外科、
皮膚科、小児科、
耳鼻咽喉科、
理学療法科、
脳神経外科)
- 2月 病床数202床になる
- 6月 高気圧酸素治療装置導入
- 7月 泌尿器科新設
標榜科目9
(内科、外科、整形外科、
皮膚科、小児科、
耳鼻咽喉科、理学療法科、
脳神経外科、泌尿器科)



第6号

1995年
(平成7年)

- 1月 病床種別変更
(一般病床157床・
療養型病床群45床)
- 3月 わらび苑
痴呆棟開設のため
78床に増床
(痴呆20床、
一般58床)



第7号

1996年
(平成8年)

- 11月 理学療法科を
リハビリ
テーション科へ
変更
リウマチ科新設
標榜科目10
(内科、外科、
整形外科、皮膚科、小児科、
耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、
脳神経外科、泌尿器科、
リウマチ科)



第8号

1997年
(平成9年)

- 4月 眼科新設
標榜科目11
(内科、外科、
整形外科、
皮膚科、小児科、
耳鼻咽喉科、



第9号

		リハビリテーション科、 脳神経外科、 泌尿器科、リウマチ科、眼科)			皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、 脳神経外科、泌尿器科、 眼科、麻酔科、 放射線科、循環器科)	
	5月	訪問看護ステーション 「野の花」開設				
1998年 (平成10年)		院外処方箋 運用開始		2003年 (平成15年)	2月 オーダリング システム稼働 (シーエスアイ)	
			第 10 号		4月 田上診療所開設 (所長に 竹野孝一郎就任)	
1999年 (平成11年)	4月	田上病院院長に 田上容祥就任			5月 第二種感染病床2床、 結核モデル病床2床 使用許可	
	6月	理学療法Ⅱ認可			6月 病床種別変更 (一般病床 157床から202床に くうち第二種感染症 病床2床> ・結核モデル病床2床 新設・療養型病床群廃止)	
	7月	種子島サンセット 車いす マラソン大会に 救護ボランティア として参加	第 11 号		8月 病床種別変更 (一般病床202床のうち、 回復期リハビリテーション 病棟36床認可) 看護支援システム稼働	
2000年 (平成12年)	2月	麻酔科、 放射線科新設 標榜科目13 (内科、外科、 整形外科、 皮膚科、小児科、 耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、 脳神経外科、泌尿器科、 リウマチ科、眼科、 麻酔科、放射線科)				
			第 12 号	2004年 (平成16年)	1月 電子カルテ システム (診療記録) 稼働 (シーエスアイ)	
2001年 (平成13年)	2月	6階建に増築			5月 心臓カテーテル 検査開始	第 16 号
	5月	作業療法Ⅱ認可			6月 病院機能評価 複合B認定 地域リハビリテーション 広域支援センター指定	
2002年 (平成14年)			第 13 号		10月 病棟再編 内科病棟・整形病棟移動	
	8月	電算室増築 循環器科新設・ リウマチ科廃止 標榜科目13 (内科、外科、 整形外科、				
			第 14 号			

沿革

2005年
(平成17年)

第 17 号

2006年
(平成18年)

- 4月 病棟再編
15対1入院基本料 (166床)
結核入院基本料 (2床)
回復期
リハビリテーション
病棟 (36床)
- 5月 病棟再編
15対1入院基本料 (202床)
3階東病棟
回復期リハビリ病棟の
取り下げ
3階東病棟、4階病棟移動
結核モデル病床2床
- 7月 病棟再編
15対1入院基本料 (154床)
結核入院基本料 (2床)
4階病棟
回復期リハビリテーション
病棟 (48床)
- 9月 13対1入院基本料 (154床)
- 11月 10対1入院基本料 (154床)



第 18 号

2007年
(平成19年)

- 1月 心療内科新設
標榜科目14
(内科、外科、
整形外科、
皮膚科、
小児科、
耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、
脳神経外科、泌尿器科、
眼科、麻酔科、放射線科、
循環器科、心療内科)
- 田上容正理事長
「医療功労賞」受賞
- 12月 看護師寮新築



第 19 号

2008年
(平成20年)

- 1月 中央材料室・手術室改築
田上容正理事長
「県民表彰 (鹿児島県)」
「市民表彰 (西之表市)」受賞

2009年
(平成21年)

- 4月 亜急性期病床
8床運用開始
(3階東病棟8床)
DPC請求開始
管理棟新築
呼吸器科新設
標榜科目15
(内科、外科、整形外科、
皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、
脳神経外科、泌尿器科、
眼科、麻酔科、放射線科、
循環器科、心療内科、呼吸器科)
『飛魚』が年報誌に
- 5月 薬局改築
安全キャビネット・
クリーンベンチ導入
- 6月 「日本医療機能評価
Ver5.0」認定
- 9月 亜急性期病床12床へ増床
(3階東病棟8床、
3階西病棟4床)
- 10月 田上病院開院40周年
記念式典



第 20 号

2010年
(平成22年)

- 2月 リウマチ科新設
標榜科目16
(内科、外科、
整形外科、
皮膚科、小児科、
耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、
脳神経外科、泌尿器科、
眼科、麻酔科、放射線科、
循環器科、心療内科、
呼吸器科、リウマチ科)
- 4月 社会医療法人認定、改組
会長に田上容正就任
理事長に田上寛容就任
- 6月 副院長に田上純真就任
- 8月 ハイケアユニット4床設置
(2階病棟)



第 21 号

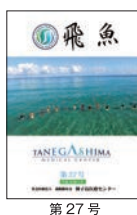
2011年 (平成23年)	12月	鉄砲まつり手踊り参加 「鹿児島県がん診療 指定病院」指定	
	4月	消化器内科新設 標榜科目17 (内科、外科、 整形外科、 皮膚科、 小児科、 耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、 脳神経外科、泌尿器科、 眼科、麻酔科、放射線科、 循環器科、心療内科、 呼吸器科、リウマチ科、 消化器内科)	
	8月	新電子カルテシステム稼働 (ソフトウェア・サービス)	
2012年 (平成24年)	9月	亜急性期病床 16床へ増床 (3階東病棟12床、 3階西病棟4床)	
	11月	ハイケアユニット 4床廃止	
2013年 (平成25年)	1月	介護保険訪問 リハビリ開設	
	4月	亜急性期病床 20床へ増床 (2階病棟8床、 3階東病棟8床、 3階西病棟4床)	
	5月	320列CT導入 MRI更新 検査室、小児科周り改修工事	
2014年 (平成26年)	1月	X線TV装置(X線透視装置)更新	
	2月	生化学検査機器更新 自動精算機1、2号機更新	
	3月	DMAT隊結成	
	4月	副会長に田上容祥就任 病院長に高尾尊身就任 副院長に山口智代子就任	

2015年 (平成27年)	8月	放射線室内ネットワーク 機器更新	
	9月	検査画像統合システム・ 放射線情報管理システム更新	
	10月	亜急性期病床廃止 遠隔医療支援システム (SCOPIA)稼働	
2015年 (平成27年)	12月	自動分包機稼働	
	1月	病棟再編 3階東病棟 地域包括ケア病棟 42床	
	4月	脳神経外科医師の 非常勤体制開始 (常勤医不在) へき地診療 支援センター開設 (センター長に 猿渡邦彦就任) 法人事務局長に 羽生守彦就任 肝臓内科、腎臓内科、血液内科、 糖尿病内科、神経内科、消化器 外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、 乳腺・甲状腺外科 新設 標榜科目25 (内科、外科、整形外科、 皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、 脳神経外科、泌尿器科、 眼科、麻酔科、放射線科、 循環器科、心療内科、呼吸器科、 リウマチ科、消化器内科、 肝臓内科、腎臓内科、血液内科、 糖尿病内科、神経内科、 消化器外科、 肝臓・胆のう・膵臓外科、 乳腺・甲状腺外科)	
	5月	遠隔病理診断システム導入 末血検査機器更新 医師住宅5棟完成(松島) ステラッド滅菌器更新 ペインクリニック内科新設 標榜科目26 (内科、外科、整形外科、皮膚科、 小児科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科)	

沿革

2016年
(平成28年)

- 脳神経外科、泌尿器科、眼科、
麻酔科、放射線科、循環器科、
心療内科、呼吸器科、
リウマチ科、消化器内科、
肝臓内科、腎臓内科、
血液内科、糖尿病内科、
神経内科、消化器外科、
肝臓・胆のう・膵臓外科、
乳腺・甲状腺外科、
ペインクリニック内科)
- 6月 鼻用手術装置導入
- 7月 田上診療所休診(8月末まで)
耳鼻科手術開始
- 8月 回転用X線撮影装置更新
外科用X線テレビシステム更新
- 9月 病理解剖1例目実施
- 10月 脳神経外科
常勤医師による診療開始
- 1月 無停電源装置更新
- 3月 結核病棟の
陰圧工事
- 4月 病院名を
種子島医療センター
に変更
病院長補佐に
花園幸一外科部長、
北園和成内科部長を任命
看護局長に山口智代子就任
看護部長に戸川英子就任
- 5月 「地域がん診療病院」指定
(厚生労働省)
がんサロン「サロン種子島」開設
医師住宅(単身赴任者用)
2棟完成(松島)
眼底撮影システム一式 更新
- 8月 全自動散剤分包機
(Sinngle-R93ZII) 更新
- 9月 病院内空調機更新
訪問リハビリテーションを
訪問看護ステーション
「野の花」に編入
- 10月 鹿児島県行政視察
(県議会環境厚生委員会)
- 12月 超音波診断装置ARIETTA70更新
生体情報モニターシステム
(オムロンV7000) 更新



第27号

2017年
(平成29年)

- 1月 種子島医療センター
病院祭
- 2月 病理解剖2例目
実施
- 3月 医師住宅2棟完成
- 4月 わらび苑施設長に
猿渡邦彦就任
- 5月 鹿児島県総合防災訓練
参加(DMAT隊)
- 7月 内視鏡室改修
および内視鏡システム更新
- 9月 ベッド更新10台
- 10月 「日本ヒト細胞学会
学術集会in種子島」開催
(大会会長
高尾尊身病院長)
DMAT訓練に参加



第28号

2018年
(平成30年)

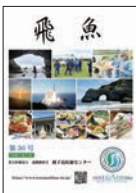
- 3月 平成29年度
西之表市
災害対策訓練参加
- 4月 医師住宅2棟完成
わらび苑施設長
猿渡邦彦
種子島医療センター
へ異動
わらび苑施設長に
池村紘一郎就任
ベッド更新50台
看護師特定行為研修者
養成開始
(2名を鹿児島大学へ派遣)
- 6月 IABP装置導入
「Life on the long board
2nd wave」映画撮影
- 7月 ベッドサイドモニター2台
人工呼吸器2台増設
- 8月 副病院長に濱之上雅博就任
眼科用検査機器一式更新
鉄砲まつり手踊り参加
救急自動車導入
- 9月 「ジロ・デ・種子島2018」
サイクリング大会救護支援
- 10月 種子島医療センター看護PR大使
に松原奈佑さん(女優)を任命
- 11月 病理解剖3例目実施
電話機交換、配線工事



第29号

2019年 (平成31年/ 令和元年)		厨房床改修工事 日本病院機能評価機構による 病院機能評価 受審 病院近隣土地の購入 (1,940.86㎡)		2021年 (令和3年)	1月	職員宿舍 建設予定地購入 (1,208㎡)	
	1月	社会医療法人に 係る実地検査 (鹿児島県)		2月	新型コロナウイルス 感染症等入院病床 重点医療機関指定 法人看護局長 山口智代子氏 退任		
	3月	駐車場拡張工事		3月	モバイルリアルタイムPCR装置 2台目導入 医療従事者への 新型コロナワクチン接種 1回目実施 田上診療所院長 竹野孝一郎氏 辞職		
	4月	鹿児島大学に 寄付講座 「心血管病予防 分析学講座」設置 事務部に広報企画課設置		4月	医療従事者への 新型コロナワクチン接種 2回目実施 田上診療所院長 岩元二郎氏 就任		
	5月	病院機能評価 (3rdG:Ver. 2.0) 「一般病院2」認定			5月	職員宿舍建設着工	
2020年 (令和2年)	3月	法人事務局長 羽生守彦氏 辞職		6月	病院北側駐車場新設 3階西病棟トイレ 大規模改修工事 ベッドパンウォッシャー4台導入		
	4月	新型コロナウイルス 感染症拡大に伴い、 入院患者への 面会制限開始		8月	2階病棟多目的トイレ オストメイト改修工事		
	7月	発熱・接触者外来 (簡易診察室) 設置・ 稼働開始 モバイルリアルタイム PCR装置導入 行政合同 (保健所・1市2町) での新型コロナウイルス 対策本部設置 新型コロナウイルス 感染症患者の搬送訓練 実施 (合同訓練)		10月	職員宿舍 (スカイブルーハイツ) 2棟 完成		
	8月	HER-SYS稼働開始 通信機器を用いた オンライン面会開始 eラーニングシステムを 用いた院内研修開始		12月	医療従事者への 新型コロナワクチン接種 3回目実施 2階、3階ロビー大規模改修工事 わらび苑施設長 池村紘一郎氏 辞職		
	11月	新型コロナウイルス 感染症等入院病床 協力医療機関指定					
				2022年 (令和4年)	1月	わらび苑施設長 猿渡邦彦氏 就任	
			3月	わらび苑施設長 猿渡邦彦氏 辞職 救急チーム結成			
			5月	わらび苑施設長 松本松昱氏 就任			
			6月	3階西病棟空調機器更新			

沿革

2023年 (令和5年)	8月	医療従事者への 新型コロナワクチン接種4回目		2025年 (令和7年)	3月	眼科、麻酔科、放射線科、 リハビリテーション科、 心療内科、リウマチ科、 消化器内科、呼吸器内科、 肝臓内科、腎臓内科、 血液内科、糖尿病内科、 神経内科、消化器外科、 肝臓・胆のう・膵臓外科 乳腺・甲状腺外科、救急科)	
	9月	全自動化学発光酵素免疫 測定装置 (AIA-CL1200ST) 導入			6月	特定技能外国人 採用 (種子島医療 センター 4名)	
	10月	X線骨密度測定装置 (Horizon C) 導入			12月	チームコンパス (看護記録・看護計画 支援システム) 導入	
2024年 (令和6年)	2月	外科用X線 テレビシステム (OPESCOPE ACTENO) 導入 許可病床数変更 204床 → 188床 2階病棟 55床 → 47床 3階西病棟 59床 → 51床		2026年 (令和8年)	3月	許可病床数変更 188床 → 157床 2階病棟 47床 → 40床 3階西病棟 51床 → 42床 3階東病棟 42床 → 35床 4階病棟 48床 → 40床	
	4月	入院基本料区分変更 急性期一般入院料4 → 急性期一般入院料1 看護部長に園田満治就任					
	7月	馬毛島巡回診療開始					
2024年 (令和6年)	1月	種子島 医療センター 職員宿舎2棟 新築					
	2月	馬毛島診療所開設					
	3月	入院基本料区分 変更 急性期一般入院料1 → 急性期一般入院料2 回復期リハビリテーション病棟 入院料1 → 回復期リハビリテーション 病棟入院料3					
	7月	医療措置協定 (第1種・第2種 協定指定医療機関) 指定					
	11月	病院機能評価 (一般病院2 Ver3.0) 受審 救急科新設、 ペインクリニック内科廃止 標榜診療科26 (内科、循環器内科、外科、 小児科、整形外科、脳神経外科、 耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、					

概要

1) 名称

社会医療法人 義順顕彰会
種子島医療センター

2) 所在地

〒891-3198
鹿児島県西之表市西之表7463番地

3) 電話・FAX

電話:0570-09-0960 FAX:0997-22-1313

4) メールアドレス

master@tanegashima-mc.jp

5) ホームページ

<https://www.tanegashima-mc.jp>

6) 開設者

社会医療法人 義順顕彰会

7) 管理者

高尾 尊身

8) 診療科目〔26科〕

内科、消化器内科、循環器内科、外科
整形外科、脳神経外科、小児科、眼科
リハビリテーション科、麻酔科、リウマチ科
皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科
呼吸器内科、心療内科、神経内科、血液内科
糖尿病内科、肝臓内科、腎臓内科、消化器外科
肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科
救急科

9) 病床数

188床（うち3階西病棟に感染症病床2床）

病棟名	主な診療科	病床数	4床室	2床室	1床室
2階病棟	外科 整形外科 脳神経外科	47	9	3	5
3階西病棟	内科 小児科 眼科	51	9	5	5
3階東病棟	地域包括 ケア	42	7	4	6
4階病棟	回復期 リハビリ	48	9	3	6
合計		188	34	15	22

10) 指定種別

① 保険・公費負担医療機関

感染症指定医療機関（第二種）
感染症指定医療機関（第二種）
感染症指定医療機関（結核）
労災保険指定医療機関
指定自立支援医療機関（育成医療）
指定自立支援医療機関（更生医療）
指定自立支援医療機関（精神通院医療）
生活保護指定医療機関
特定疾患治療研究事業委託医療機関
小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
肝炎治療特別促進事業指定医療機関
戦傷病者特別援護法指定医療機関
原子爆弾被害者医療指定
・原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
新型コロナウイルス感染症重点医療機関

② 病院機能

DPC対象病院
へき地医療指定病院
災害拠点病院
DMAT指定病院
救急告示病院Ⅱ類（救急指定二次）
SARS受入医療機関
エイズ治療・協力病院
地域がん診療病院
難病医療指定協力医療機関
特定健診委託医療機関
結核予防法指定病院
結核ハイリスク者健診事業受託医療機関
人間ドック契約病院
ATL検査委託実施医療機関
肝炎診療専門医療機関
消化器がん検診精密検査実施協力医療機関
大腸がん検診精密検査実施協力医療機関
肺がん検診精密検査実施協力医療機関
予防接種相互乗り入れ医療機関
日本整形外科学会認定研修施設
日本麻酔学会麻酔科認定病院
臨床研修関連病院
日本外科学会外科専門医制度関連施設
日本消化器内視鏡学会連携施設
地域リハビリテーション広域支援センター
理学療法士臨床実習指導施設
作業療法士臨床実習指導施設

日本内科学会認定医教育関連病院
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本肝臓学会肝臓専門医特別連帯施設

11) 施設基準

① 基本診療料の施設基準

- 第95 情報通信機器を用いた診療に係る基準
- 第1012号 医療DX推進体制整備加算
- 第309号 一般病棟入院基本料
(急性期一般入院料2)
- 第14号 救急医療管理加算
- 第32号 超急性期脳卒中加算
- 第10号 診療録管理体制加算1
- 第12号 医師事務作業補助体制加算1
- 第3号 急性期看護補助体制加算
(25対1 看護補助者5割以上)
- 第85号 療養環境加算
- 第461号 重症者等療養環境特別加算
- 第7号 リハビリテーション・栄養・
口腔連携体制加算
- 第25号 栄養サポートチーム加算
- 第57号 医療安全対策加算2
- 第2号 感染防止対策加算1
- 第122号 後発医薬品使用体制加算2
- 第21号 データ提出加算
- 第211号 入退院支援加算
- 第56号 認知症ケア加算
- 第52号 せん妄ハイリスク患者ケア加算

② 特定入院料

- 第11号 小児入院医療管理料5
- 第47号 回復期リハビリテーション病棟
入院料3
- 第48号 地域包括ケア病棟入院料1

③ 特掲診療料の施設基準

- 第153号 がん性疼痛緩和指導管理料
- 第41号 がん患者指導管理料イ
- 第34号 がん患者指導管理料ロ
- 第23号 二次性骨折予防継続管理料1
- 第25号 二次性骨折予防継続管理料2
- 第46号 二次性骨折予防継続管理料3
- 第40号 救急搬送看護体制加算
- 第3号 外来腫瘍化学療法診療料1
- 第345号 ニコチン依存症管理料
- 第21号 がん治療連携計画策定料
- 第2号 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料

- 第168号 薬剤管理指導料
- 第66号 医療機器安全管理料1
- 第94 別添1の「第14の2」の1の(3)に
規定する在宅療養支援病院
- 第786号 在宅時医学総合管理料及び
施設入所等総合管理料1
- 第13号 在宅患者訪問看護指導料
- 第2号 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
- 第35号 持続型血糖測定器(間歇注入
シリンジポンプと連動する
持続血糖測定器を用いる場合)
- 第13号 持続型血糖測定器(間歇注入
シリンジポンプと連動しない
持続血糖測定器を用いる場合)
- 第99号 検体検査管理加算(Ⅰ)
- 第47号 時間内歩行試験及び
シャトルウォーキングテスト
- 第28号 ヘッドアップティルト試験
- 第187号 コンタクトレンズ検査料1
- 第17号 小児食物アレルギー負荷検査
- 第288号 CT撮影及びMRI撮影
- 第21号 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 第93号 外来化学療法加算1
- 第61号 無菌製剤処理科
- 第56号 脳血管疾患等
リハビリテーション料(Ⅰ)
- 第96号 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- 第134号 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- 第49号 がん患者リハビリテーション料
- 第14号 認知療法・認知行動療法1
- 第81号 人工腎臓
- 第69号 導入期加算1
- 第3号 透析液水質確保加算
及び慢性維持透析濾過加算
- 第80号 ペースメーカー移植術
及びペースメーカー交換術
- 第38号 大動脈バルーンパンピング法
(IABP法)
- 第41号 医科点数表第2章第10部
手術の通則の16に掲げる手術
- 第17号 輸血管理料Ⅱ
- 第2号 輸血適正使用加算
- 第26号 人工肛門
・人工膀胱造設術前処置加算
- 第22号 胃ろう造設時嚥下機能評価加算

- 第101号 麻酔管理料 (I)
- 第16号 保険医療機関間の連携による
病理診断
- 第6号 保険医療機関間の連携における
デジタル病理画像による術中迅速
病理組織標本作製
- 第7号 看護職員処遇改善評価料38
- 第322号 外来・在宅ベースアップ評価料
- 第5号 入院ベースアップ評価料43
- ④ 入院時食事療養及び入院時生活療養
 - 第335号 入院時食事療養 (I)
 - ・入院時生活療養 (I)
- ⑤ その他の施設基準
 - 第42914号 酸素の購入単価

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

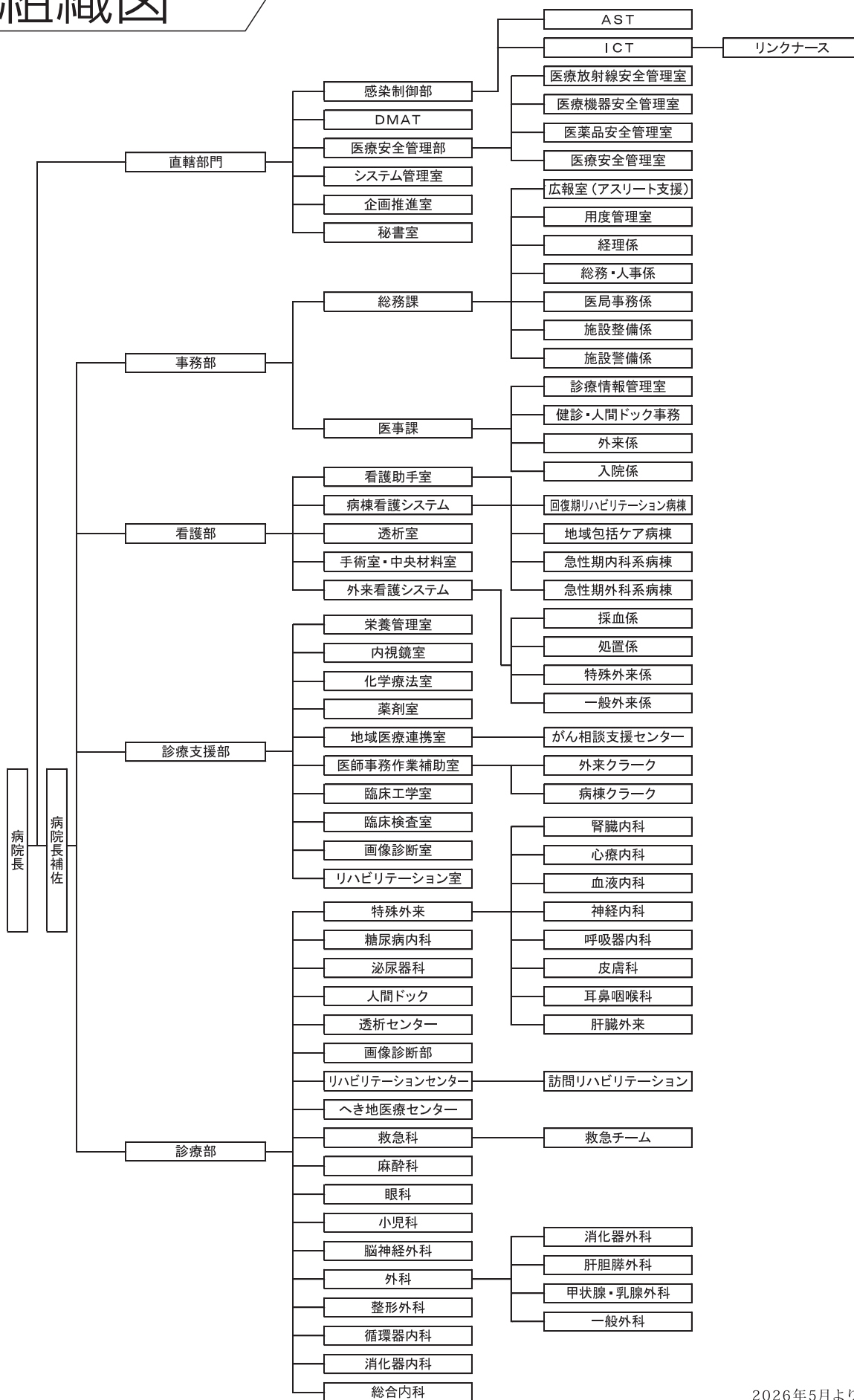
院内委員会

関連施設

活動紹介

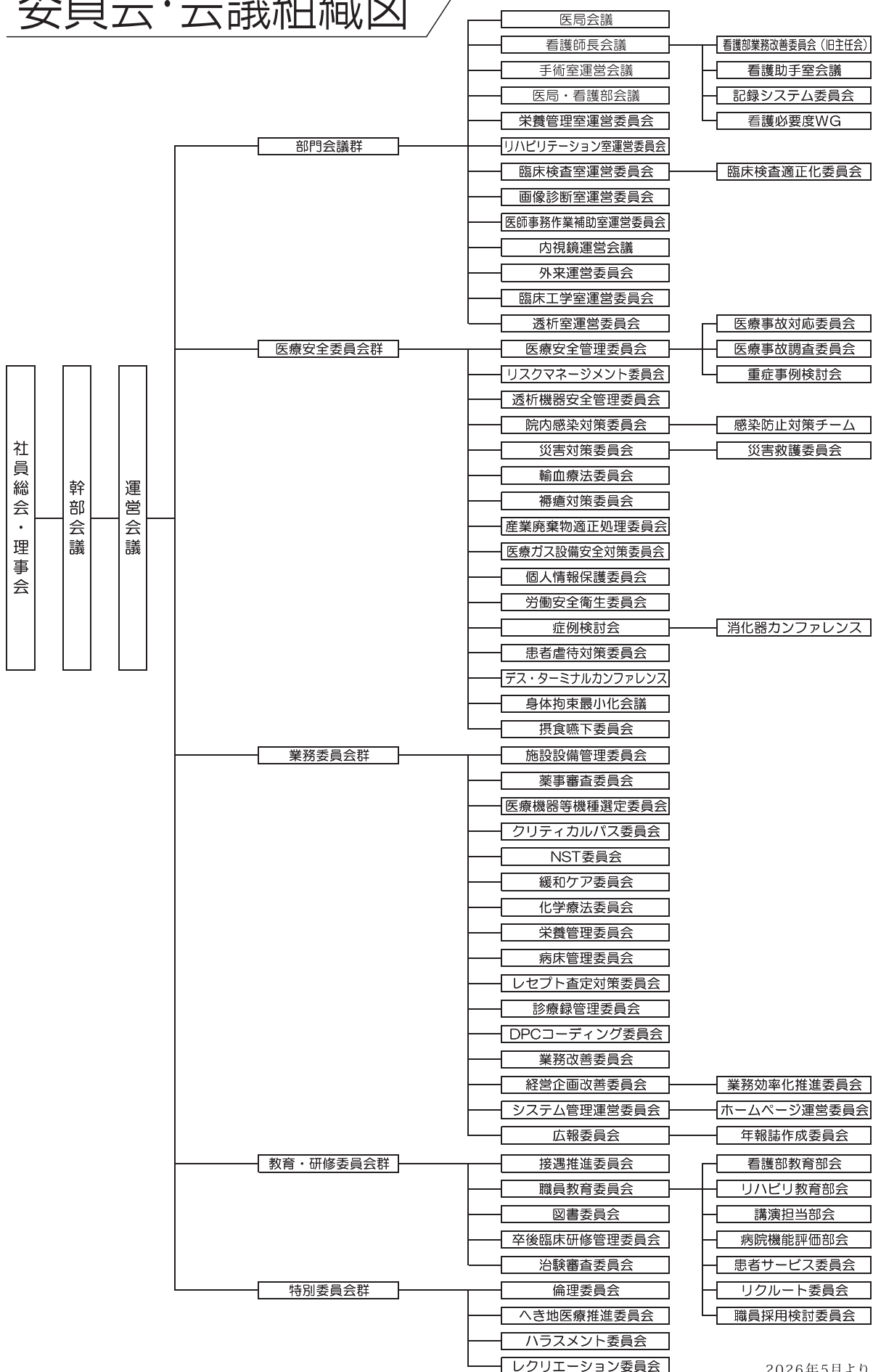
研究・研修

組織図



委員会・会議組織図

Tanegashima Medical Center Annual Report 2026



2026年5月より

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

在籍医師紹介

Tanegashima Medical Center Annual Report 2026

(2026年5月付)



社会医療法人義順顕彰会 会長

田上 容正

専門分野
内科一般
所属学会
日本内科学会



種子島医療センター理事長

田上 寛容

専門分野
内科一般、循環器疾患
所属学会
日本内科学会
日本プライマリ・ケア学会



種子島医療センター病院長

高尾 尊身

専門分野
外科一般、消化器外科、肝胆膵外科、消化器がん
所属学会
日本外科学会 日本消化器外科学会 日本消化器病学会
日本肝胆膵外科学会 日本ヒト細胞学会 日本癌学会
日本癌治療学会

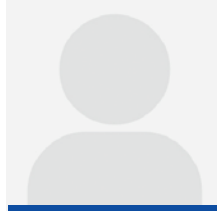
外科



外科部長

松下 大輔

専門分野
消化器外科(胃)
所属学会
日本外科学会
日本消化器外科学会
日本臨床外科学会
日本臨床腫瘍学会
日本内視鏡外科学会
日本癌治療学会
日本胃癌学会
日本大腸肛門病学会



外科医長

富田 実代

専門分野
消化器外科
所属学会
日本外科学会
日本消化器外科学会

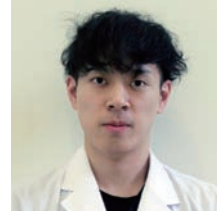
国際胃癌学会
胃外科・術後障害研究会、
AACR(米国癌学会) active member



外科副医長

奥村 浩平

専門分野
外科
所属学会
日本外科学会
日本消化器外科学会
日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会
日本消化器病学会



庄 亮真

(2025年4月～2026年3月在籍 外科医長)



里井 俊太朗

(2025年4月～2026年2月在籍 外科副医長)

眼科



病院長補佐／眼科部長

田上 純真

専門分野
眼科全般
所属学会
日本眼科学会

脳神経外科



脳神経外科部長

黒木 伸一

専門分野
脳神経外科一般
脳血管障害の外科治療・血管内治療
所属学会
日本脳神経外科学会
日本脳卒中学会
日本脳卒中の外科学会
日本脳神経血管内治療学会
日本脳神経外科コンgres
日本小児神経学会



渡邊 章二

専門分野
脳神経外科一般
所属学会
日本脳神経外科学会
日本脳神経血管内治療学会
日本脳卒中学会
日本脳卒中の外科学会
(2025年1月～2026年3月在籍 脳神経外科医長)



木佐貫 彩

専門分野
脳神経外科一般
所属学会
日本脳神経外科学会
日本脳神経血管内治療学会
日本脳卒中学会
(2025年4月～2026年3月在籍 脳神経外科医長)

在籍医師紹介

Tanegashima Medical Center Annual Report 2026

整形外科



整形外科部長

堀之内 駿

専門分野
膝・股関節の人工関節
所属学会
日本整形外科学会
西日本整形・災害外科学会



整形外科医長

高田 壽愚瑠

専門分野
一般整形外科
所属学会
日本整形外科学会
日本人工関節学会



整形外科副医長

園田 攝也

専門分野
整形外科
所属学会
日本整形外科学会
西日本整形・災害外科学会



吉元 秋穂

専門分野
一般整形外科
所属学会
日本整形外科学会
日本関節病学会
西日本整形・災害外科学会
(2024年4月～2025年9月在籍 整形外科副医長)



米澤 嘉紘

専門分野
一般整形
所属学会
日本整形外科学会
西日本整形・災害外科学会
(2025年10月～2026年3月在籍 整形外科副医長)

内科・総合 診療科



診療科医長

島田 紘一

専門分野
内科一般、消化器内科
所属学会
日本内科学会
日本臨床内科医会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会

循環器内科



循環器内科部長

請園 友之

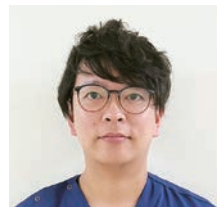
専門分野
循環器全般
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
日本心血管インターベンション治療学会
日本緩和医療学会



循環器内科医長

窪田 唯伊

所属学会
日本内科学会
日本循環器学会



循環器内科副医長

野崎 圭吾

専門分野
循環器一般
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
日本心血管インターベンション治療学会



藺田 剛嗣

専門分野
循環器全般
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
日本心血管インターベンション治療学会
日本経カテーテル心臓弁治療学会
(2024年4月～2026年3月在籍 循環器内科副医長)



田方 健人

専門分野
循環器内科、カテーテル治療
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
日本心血管インターベンション治療学会
日本経カテーテル心臓弁治療学会
(2025年4月～2026年3月在籍 循環器内科医長)

泌尿器科 透析室



泌尿器科部長

中目 康彦

専門分野
泌尿器科一般、透析
所属学会
日本泌尿器科学会
日本透析医学会

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

在籍医師紹介

Tanegashima Medical Center Annual Report 2026

小児科



小児科部長・田上診療所所長

岩元 二郎

専門分野
小児科全般、発達障害
所属学会
日本小児科学会
日本小児救急医学会
日本外来小児科学会



小児科医長

堀口 達史

専門分野
小児内分泌
所属学会
日本小児科学会
日本小児内分泌学会
日本内分泌学会



小児科副医長

石坂 俊介

専門分野
内分泌
所属学会
日本小児科学会



西 遼太郎

専門分野
小児科
所属学会
日本小児科学会
日本新生児生育医学会
日本臨床栄養代謝学会
日本栄養治療学会
(2024年4月～2026年3月在籍 小児科医長)

消化器内科



消化器内科医長

桑原 萌絵未

専門分野
消化器内科
所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会



消化器内科医長

徳田 弘幸

専門分野
消化器内科
所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会



福迫 哲史

専門分野
消化器内科
所属学会
日本消化器病学会
日本消化管学会
日本消化器内視鏡学会
日本内科学会
(2025年4月～2026年3月在籍 消化器内科部長)

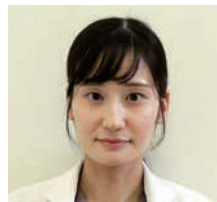
糖尿病内科



糖尿病内科部長

向井 美希

専門分野
糖尿病内科
所属学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会
日本内科学会



糖尿病内科副医長

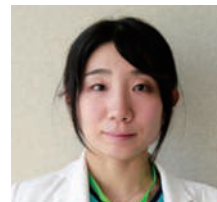
堀之内 咲衣

専門分野
糖尿病内科、内分泌内科
所属学会
日本内科学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会



山神 大

専門分野
糖尿病内科、内分泌内科
所属学会
日本内科学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会
日本甲状腺学会
(2025年4月～2026年3月在籍 糖尿病内科部長)



中村 香織

専門分野
糖尿病内科、内分泌内科
所属学会
日本内科学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会
(2024年4月～2026年3月在籍 糖尿病内科医長)

麻酔科



災害医療顧問

高山 千史

専門分野
麻酔科全般
所属学会
日本麻酔科学会

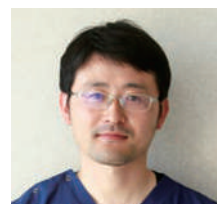


麻酔科部長

多田 直綱

専門分野
麻酔科全般、区域麻酔
所属学会
日本麻酔科学会
日本ペインクリニック学会
日本区域麻酔学会

放射線科



病院長補佐 救急科科長兼放射線科部長

野田 健仁

専門分野
救急診療、総合内科、画像診断
所属学会
日本内科学会
日本医学放射線学会
日本インターベンショナルラジオロジー学会
日本救急医学会

職員数

Tanegashima Medical Center Annual Report 2026

(各年度4月1日現在) 単位：人

	R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医師	19		21		23		24		25		27	
看護師	(計166)	(計 27)	(計163)	(計 29)	(計151)	(計 32)	(計137)	(計 35)	(計128)	(計 32)	(計127)	(計 36)
正看護師	94	7	93	8	79	8	73	10	73	9	69	11
准看護師	31	4	29	3	27	5	21	8	20	8	19	9
看護助手	32	10	32	11	33	12	31	10	27	9	28	10
クラーク	9	6	9	7	12	7	12	7	8	6	11	6
薬剤師	5	0	4	1	4	0	3	1	3	1	4	0
放射線技師	7	0	8	0	9	0	7	0	9	0	8	0
臨床検査技師	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1
リハビリテーション室	(計 64)	(計 2)	(計 68)	(計 1)	(計 59)	(計 1)	(計 50)	(計 1)	(計 46)	(計 2)	(計 45)	(計 1)
理学療法士	37	2	42	1	35	1	29	1	26	2	23	1
作業療法士	19	0	19	0	18	0	15	0	13	0	16	0
言語聴覚士	5	0	6	0	6	0	6	0	7	0	6	0
あん摩指圧	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床工学技士	10	0	9	0	7	0	7	0	6	1	6	0
管理栄養士(栄養士含む)	4	0	3	0	3	0	3	0	4	0	5	1
医事課	(計 10)	(計12)	(計 13)	(計 11)	(計 10)	(計 11)	(計 10)	(計 7)	(計 11)	(計 12)	(計 9)	(計 12)
“(入院)”	3	0	3	0	3	0	3	0	2	0	3	0
“(外来)”	7	6	10	4	7	4	7	1	9	3	6	4
“(フロア)”	0	4	0	4	0	4	0	3	0	5	0	5
“(電話)”	0	3	0	3	0	3	0	3	0	3	0	3
医療情報管理	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
システム管理室	1	0	4	0	3	0	3	0	3	0	2	0
地域医療連携室	2	0	3	0	3	0	3	0	3	0	5	0
事務室	9	1	11	1	9	2	12	2	13	1	12	1
庶務	3	6	3	6	3	6	3	7	3	9	3	8
用度管理室	2	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	0
保育所	3	2	3	3	3	1	3	1	3	1	2	1
その他	7	3	7	3	7	4	8	3	7	3	6	3
合計	318	55	328	56	302	60	281	58	271	63	269	64

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

病院日誌

Tanegashima Medical Center Annual Report 2026

年	月	日	内 容
令和7年	4	1	新入職辞令交付式 「頭痛外来」診療開始
		1～30	研修医受入（福岡大学病院 2名）
		1～5/31	研修医受入（鹿児島大学病院 1名）
		15	新入職員歓迎会：ホテルニュー種子島
		24	第77回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 五貫 律都先生（福岡大学病院） 工藤 滉大先生（福岡大学病院） 退職講演会 副院長・消化器外科 濱之上 雅博先生
	5	1～30	研修医受入（いまきいれ総合病院 1名、鹿児島医療センター 1名）
		4	こども祭りイベント参加（西之表市商工会主催）
		9	日本医療機能評価機構（3rdG：Ver. 3. 0）「一般病院2」認定
		20	「へいじろう」2025春 第73号発刊
		26	第78回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 勝山 ビタリー先生（鹿児島大学病院） 多田野 真央先生（いまきいれ総合病院） 原田 聞先生（鹿児島医療センター）
		27～29	職業体験学習（種子島中学校3年生26名）
	30	クリーン大作戦（病院周辺清掃）	
	6	2	ミャンマー 4名ナースエイド入職
		2～22	研修医受入（済生会松山病院 1名）
		2～30	研修医受入（福岡大学病院 1名、鹿児島医療センター 1名）
		3	院内感染勉強会 『当院の使用状況から考えるメロペネムの適正使用』 講師：薬剤室 室長 濱口 匠
5		地域サロン支援者等研修会（西之表市高齢者支援課主催） 講師：理事長 田上 寛容先生、看護師 林 美智代	
8		公開講座 熊毛広域高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター主催 『ピラティスとは』～継続すれば身体は変わる～ 講師：SOELE認定マットピラティスインストラクター 作業療法士 堀 京夏	
14		鹿児島県医師会「喜寿表彰」受賞 病院長 高尾 尊身先生 鹿児島県医師会長賞「看護業務功労賞」受賞 戸川 英子、山口 一江	
19		第79回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 重見 佑弥先生（済生会松山病院）	
21		避難訓練・消火訓練実施	
27		第80回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 仲田 圭秀先生（鹿児島医療センター） 間部 彩先生（福岡大学病院）	
29		公開講座 『健康寿命をのばすには？』～家庭血圧測定のスズメ～ 講師：循環器内科部長 蘭田 剛嗣先生	

年	月	日	内 容
令和7年	7	1～30	研修医受入（鹿児島医療センター 3名）
		2	めいろうこども園 七夕飾り贈呈
		3	感染対策向上加算1地域連携相互ラウンド 評価実施病院：日本赤十字社 鹿児島赤十字病院 西之表市議会産業厚生委員会との意見交換
		16	令和7年度献血運動推進協力団体等厚生労働大臣感謝状贈呈
		22	院内感染勉強会 『薬剤耐性菌(特にESBL)について学ぶ』 講師：検査室 室長 遠藤 禎幸
		26	ふれあい看護体験（種子島高校生 10名、種子島中央高校生 3名、種子島中学校 14名）
		27	公開講座 『ひざの痛み～変形性膝関節症について～』 司会：リハビリテーション室部長 早川 亜津子 講師：整形外科部長 堀之内 駿先生、リハビリテーション室副主任 小川 哲哉
		28	第81回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 土持 友香先生、中村 佳帆先生、堀之内 莉奈先生（鹿児島医療センター）
		31	年報誌「飛魚」第36号発行
	8	1	就業規則の休日を年間105日から120日へ改訂
		1～30	研修医受入（鹿児島医療センター 2名）
		4～24	研修医受入（済生会松山病院 1名）
		8	「へいじろう」2025夏 第74号発行
		22	第82回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 武井 健悟先生（済生会松山病院） 村橋 暁先生、森元 桃衣先生（鹿児島医療センター）
		24	第56回 種子島鉄砲まつり 団体手踊り参加
		25～29	職員健診・ストレスチェック実施
	9	1～29	研修医受入（いまきいれ総合病院 1名、鹿児島大学病院 1名、北海道大学病院 1名）
		3	院内感染研修会 『マダニとSFTSの理解と感染対策』～患者を守る・職員を守る～ 講師：副看護部長 感染管理認定看護師 下江 理沙
		7	救急医療県民講座（西之表市民会館） 実演講演 『知って安心！救急医療のリアルと命を守る判断』 講師：副看護部長 診療看護師 竹之内 卓 特別講演『知らない！怖い救急医療について～熱中症とアナフィラキシー～（びっくり！へび咬傷も）』 講師：救急診療科長 野田 健仁先生
		18	退職講演会 整形外科 吉元 秋穂先生
		24	第83回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 蛭川 寛之先生（いまきいれ総合病院） 河野 史也先生（鹿児島大学病院） 芝野 良紀先生（北海道大学病院）

病院日誌

Tanegashima Medical Center Annual Report 2026

年	月	日	内 容
令和7年	10	1～3	種子島中央高等学校就業体験学習 3名
		1～30	研修医受入（いまきいれ総合病院 1名、福岡大学病院 2名）
		22～24	種子島高等学校就業体験学習 11名
		23	医療監視（西之表保健所による立入検査）
		27	第84回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 楯 晃太郎先生（いまきいれ総合病院） 中山 瑞季先生（福岡大学病院） 来仙 雄生先生（福岡大学病院）
		29	医療安全対策地域連携加算に係る相互評価訪問 評価実施施設：鹿児島生協病院
	11	1	種子島医療センターLINE公式アカウント開設
		5～28	研修医受入（北海道大学病院 1名、福岡大学病院 2名）
		10	「へいじろう」2025秋 第75号発刊
		10～30	地域がん診療病院医療従事者研修eラーニング ①『がんのリハビリテーションについて』 講師：作業療法士 市来 政樹 ②緩和ケアについて 講師：緩和ケア認定看護師 副看護師長 丸野 嘉行
		16	緩和ケア研修会（PEACE）
		18～20	季節性インフルエンザ集団接種
		27	第85回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 小澤 健人先生（北海道大学病院） 長瀬 愛先生（福岡大学病院） 森 悠先生（福岡大学病院）
		28、12/5	医療安全研修会 『声に出す、指をさす』～指さし呼称の重要性～ 講師：病棟副看護師長 田中 加奈
令和7年	12	30	公開講座 『脳卒中のお話』～知っておきたい発症のサインと予防のコツ～ 講師：脳神経外科部長 渡邊 章二先生
		1	看護記録システム「チームコンパス」稼働開始
		2～29	研修医受入（福岡大学病院 3名）
		6	避難訓練実施 イルミネーション点灯式
		8～1/9	身体的拘束最小化に係る研修eラーニング 『身体的拘束最小化の取り組み 厚生労働省資料まとめ』
		11	種子島高校 職業人座談会参加 病棟看護師 折口 蓮
		12	病院大忘年会：ホテルニュー種子島カラベル
		20	地域がん診療病院事業 がん講演会『大人のがん教育』～AYA世代のサポート支援～ 講師：NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 様
			がんサロン クリスマス音楽会
		24	西之表基督教会クリスマスキャロル 第86回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 大島 理桜先生（福岡大学病院） 菊池 恵里花先生（福岡大学病院） 中西 祐陽先生（福岡大学病院）
		30	仕事納め

年	月	日	内 容
令和8年	1	1～31	地域がん診療病院医療従事者研修eラーニング ①『がん性疼痛と薬物療法について』 講師：薬剤室 室長 濱口 匠 ②『がん薬物療法における悪心・嘔吐対策』 講師：がん化学療法看護認定看護師 副看護師長 山之内 信
		5	仕事始め 永年勤続者表彰（13名） 人事管理システムSmarTHR稼働開始
		5～31	医療安全研修会eラーニング 『MRI医療安全研修会』 講師：画像診断室
		6～29	研修医受入（福岡大学病院 1名）
		25	公開講座 『がんのお話』 司会：病院長 高尾 尊身先生 講師：外科部長 松下 大輔先生、外科医長 庄 亮真先生 がん化学療法看護認定看護師 副看護師長 山之内 信
		26	第87回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 岩城 葉奈先生（福岡大学病院）
		29	種子島中学校 職業講話参加 外来看護師 赤木 秀晃
		6	プロテニスプレーヤー 姫野 ナルさん表敬訪問
		10	「へいじろう」2026冬 第76号発刊
		11	島民医療講話 『今日も血圧がせんくんまんくん～血圧について知りましょう～』 講師：理事長 田上 寛容先生
	2	16～20	特定業務従事者及び電離放射線従事者健診
		25	種子島高校 島内企業説明会参加 副看護部長 竹之内 卓、臨床工学室 副主任 上妻 友紀
		25	医療安全研修会 『医療安全を支える“ことば”の力』 講師：病院長 高尾 尊身先生
	3	1	公開講座inすこやかフェスタ 『めっかりもうさん高血圧』 講師：理事長 田上 寛容先生
		1～31	医療安全研修会 eラーニング 『人工呼吸器勉強会』 講師：臨床工学室 主任 細山田 重樹
		12	退職講演会① 整形外科 米澤 嘉紘先生 消化器内科 福迫 哲史先生
		19	退職講演会② 脳神経外科 木佐貫 彩先生 外科 庄 亮真先生 小児科 西 遼太郎先生 脳神経外科 渡邊 章二先生 糖尿病内科 中村 香織先生
		27	鹿児島医療技術専門学校種子島サテライト教室開校竣工式

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

